

経済レポート

グラフで見る関西経済(2018年4月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。生産は横ばい圏で推移しているが、輸出は増加基調で推移している。雇用環境をみると、有効求人倍率が高水準で推移するなど緩やかに持ち直し、賃金も緩やかに持ち直している。個人消費は持ち直しの動きが見られる。住宅着工は横ばい圏で推移している。設備投資は持ち直している。公共投資は減少基調となっている。先行きについては、海外経済が緩やかな回復基調をたどる中、生産の持ち直し、輸出の増加が見込まれる。個人消費は所得環境の緩やかな持ち直しを背景に緩やかに持ち直すと見込まれる。住宅投資は弱含みの推移となろう。関西経済は緩やかな持ち直しが続くと思込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	↗	☁	↗
個人消費	↗	☁	↗	輸入	→	☁	→
住宅投資	→	☁	↘	生産	→	☁☀	↗
設備投資	↗	☁	↗	雇用	↗	☁☀	→
公共投資	↘	☁	↘	賃金	↗	☂	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米国の通商政策、米中貿易摩擦の行方、北朝鮮など地政学リスクの動向
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、人手不足の企業経営への影響
- ・政策～日銀新執行部による金融政策の今後の展開
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント	4月のコメント	ページ
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	3~4
2. 生産	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	5~7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	8~9
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9~10
5. 個人消費	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	11~13
6. 住宅投資	緩やかに減少している	横ばい圏で推移している	13~14
7. 設備投資	持ち直している	持ち直している	14~16
8. 公共投資	減少基調	減少基調	17
9. 輸出入	輸出は増加基調、輸入は持ち直しの動き	輸出は増加基調、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに増加	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフでみる景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

6. 住宅投資

2月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比+7.0%の11,387戸と6ヶ月ぶりに増加した。また、季調済戸数は年率14.9万戸と4ヶ月ぶりに増加した。

9. 輸出入

3月の近畿地区の実質輸入は前月比-11.4%と2ヶ月ぶりに減少し、均して見ると横ばいとなっている。

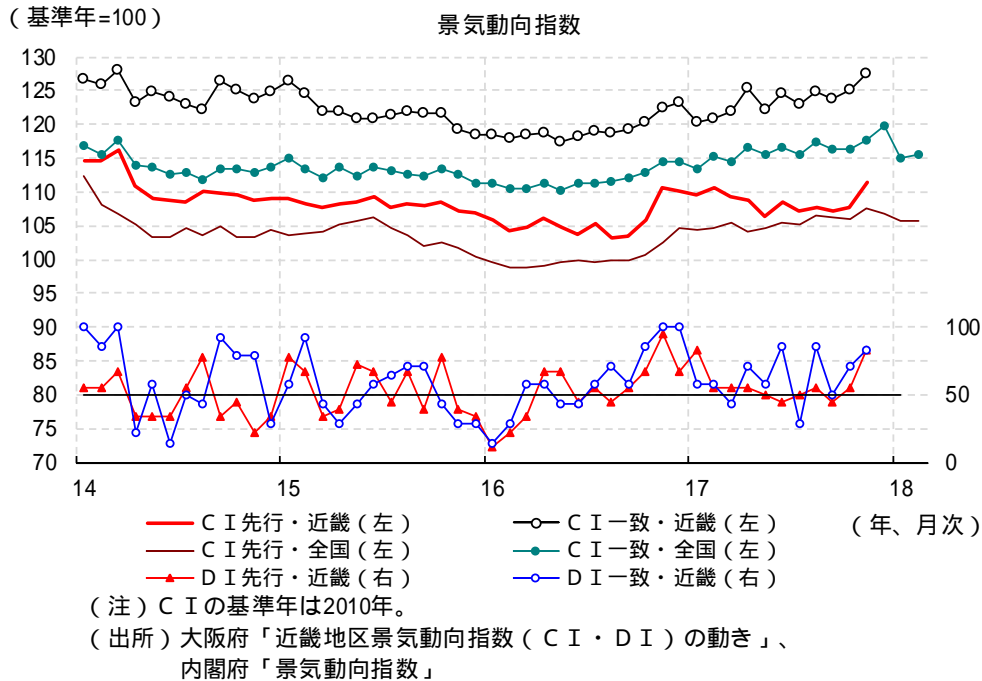
【主要経済指標の推移】

経済指標		17 1-3	17 4-6	17 7-9	17 10-12	18 1-3	17 10	17 11	17 12	18 1	18 2	18 3	
景気全般	景気動向指数(近畿) C I 先行指数(05年=100)	109.8	109.5	107.4			107.6	111.5					
	C I 一致指数(")	121.0	124.0	123.9			125.1	127.6					
	D I 先行指数(%ポイント)	64.8	50.0	50.0			55.6	83.3					
	D I 一致指数(")	52.4	71.4	54.8			71.4	83.3					
	景気ウォッチャー調査 現状判断D I (")	50.4	50.7	47.9	52.2	52.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	
	(近畿、季節調整値) 先行判断D I (")	48.2	49.6	49.9	51.3	50.7	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	
	日銀短観(近畿) 業況判断D I 製造業(%ポイント)	8	11	13	18	18	16	<6月予想>					
	非製造業(")	6	12	11	13	12	10	<6月予想>					
	法人企業統計(近畿) 経常利益 製造業(兆円)	0.7	1.2	0.8	1.1								
	非製造業(兆円)	0.4	0.9	0.6	0.6								
生産	鉱工業生産(近畿)(季節調整済、前期比・前月比)	-0.3	0.7	-0.9	1.3		2.2	3.0	1.7	-6.9	2.7		
	鉱工業出荷(近畿)(")	-1.9	1.7	-1.1	2.0		1.7	5.5	0.5	-6.6	3.0		
	鉱工業在庫(近畿)(")	4.8	3.8	1.9	-1.0		0.5	-3.0	1.4	0.0	-0.8		
	鉱工業生産(近畿) 鉄鋼(")	1.7	1.7	1.8	-1.4		-8.6	3.7	0.8	-6.4	0.3		
	金属製品(")	22.3	-14.2	-0.8	3.0		-7.4	9.3	35.2	-23.3	-6.7		
	一般機械(")	-2.8	3.3	-1.8	4.1		11.7	9.7	-11.1	-3.8	7.4		
	輸送機械(")	-1.4	8.0	-0.7	3.0		5.5	2.4	-0.8	-11.8	9.3		
	電気機械(")	-2.6	3.9	0.0	2.0		8.4	-3.4	-0.6	1.4	-9.1		
	化学(")	-3.1	-1.0	2.7	-2.4		-4.9	-2.2	12.5	-13.7	9.0		
雇用	完全失業率(近畿)(%)	3.1	3.0	3.1	2.7		2.8	2.6	2.8	2.7	2.8		
	就業者数(近畿)(万人)	1012	1028	1033	1029		1032	1032	1024	1026	1033		
	雇用者数(近畿) 建設業(前年差、万人)	4	2	1	-3								
	製造業(")	6	3	2	8								
	運輸業、郵便業(")	-6	0	5	-4								
	卸売業、小売業(")	3	5	5	-8								
	医療、福祉(")	-6	0	-5	9								
サービス業(医療、福祉以外)(")	3	13	10	6									
有効求人倍率(近畿)(季節調整値、倍)	1.37	1.43	1.46	1.51		1.49	1.51	1.52	1.54	1.54			
新規求人倍率(近畿)(")	2.09	2.21	2.23	2.36		2.38	2.34	2.36	2.37	2.34			
賃金	現金給与総額(近畿)	0.1	1.1	1.2	1.6		1.4	1.3	1.9				
	所定内給与(近畿)	0.4	1.1	0.9	0.9		1.1	1.3	1.4				
	所定外給与(近畿)	0.5	1.2	1.0	1.0		4.8	2.0	1.1				
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入(近畿) 勤め先収入	-3.4	-2.1	1.8	-2.0		-0.5	2.4	-7.7	2.2			
	定期収入	2.2	2.0	1.1	-3.5		-3.8	-2.4	-4.2	-4.1			
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出(近畿)	-1.4	3.4	0.2	0.7		5.3	6.2	-7.3	0.5	7.3		
	大型小売店販売状況(近畿) 百貨店+スーパー	-1.2	0.7	1.8	1.8		0.4	2.8	2.1	1.8	1.1		
	コンビニエンス・ストア販売状況(近畿)	3.2	3.6	3.1	1.8		0.6	2.3	2.6	2.2	2.2		
	家電大型専門店販売額(近畿)	1.0	0.6	5.9	4.0		-0.2	7.7	4.4	5.7	5.0		
	新車登録台数(近畿)	8.4	12.1	3.5	-3.2	-2.1	-2.3	-6.4	-0.9	-0.4	-3.2	-2.8	
	消費者態度指数(近畿、一般世帯)(原数値)	42.3	43.1	43.2	43.6	43.5	43.6	43.8	43.4	44.4	43.2	42.9	
住宅投資	新設住宅着工戸数(近畿)(季節調整済年率換算、千戸)	145.8	140.0	138.4	131.8		135.2	132.9	127.3	122.2	149.5		
	(前年比、%)	1.0	-4.1	-0.9	2.0		-1.5	-4.0	-7.7	-19.4	7.0		
設備投資	法人企業統計季報(近畿) 設備投資 製造業	15.4	10.8	16.5	2.1								
	非製造業	-2.3	-2.3	6.0	8.8								
	企業立地件数(近畿)(件)						11	13					
公共投資	公共工事請負額(近畿)	-8.6	-18.0	-21.8	8.8	-3.9	11.7	13.2	1.8	7.5	-26.9	3.4	
輸出入	実質輸出(近畿)(季節調整済、15年=100)	106.1	106.0	108.6	113.7	113.5	108.3	116.9	116.1	114.3	111.0	115.1	
	通関輸出(大阪税関)輸出総額	7.5	8.6	15.2	15.8	8.7	14.4	21.5	12.0	19.5	0.0	8.8	
	実質輸入(近畿)(季節調整済、15年=100)	101.1	103.1	103.5	107.5	106.9	102.6	105.9	114.0	104.0	114.8	101.7	
	通関輸入(大阪税関)輸入総額	5.5	13.0	13.4	18.0	7.9	20.8	15.5	18.0	5.7	22.2	23.2	
物価	消費者物価指数(近畿) 生鮮食品を除く総合	-0.1	0.2	0.5	0.7	0.8	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	
	食料及びエネルギーを除く総合	-0.1	0.2	0.5	0.7	0.8	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	
金融	国内銀行預金残高(近畿)	4.5	3.8	3.7	3.5		4.0	3.6	3.1	2.6	2.4		
	国内銀行貸出金残高(近畿)	1.2	1.6	1.7	1.9		2.2	2.0	1.5	1.3	1.0		
倒産	倒産件数(近畿)	-4.0	5.8	9.6	6.7	6.1	16.6	6.6	-2.2	15.3	4.4	0.5	

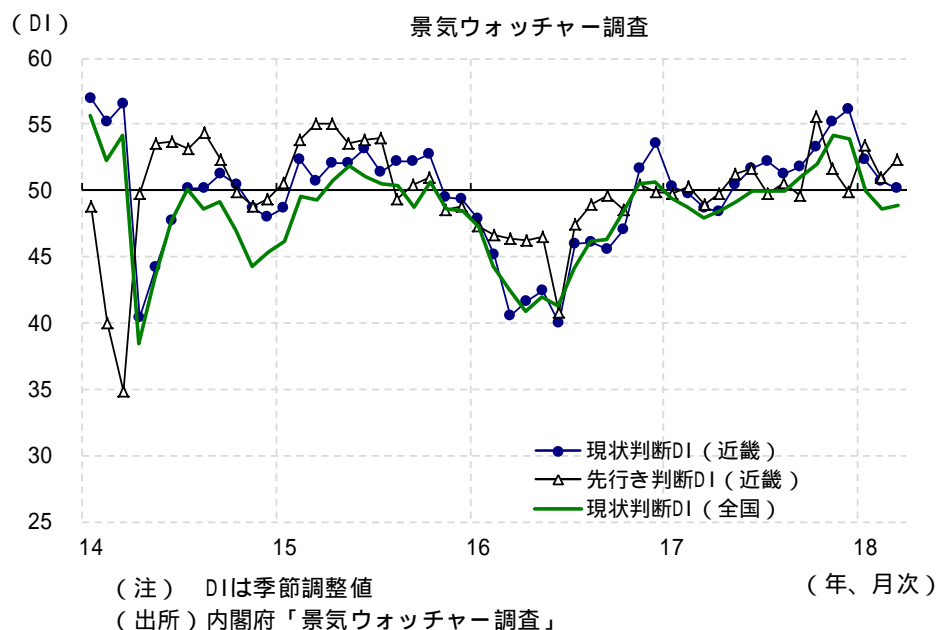
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している

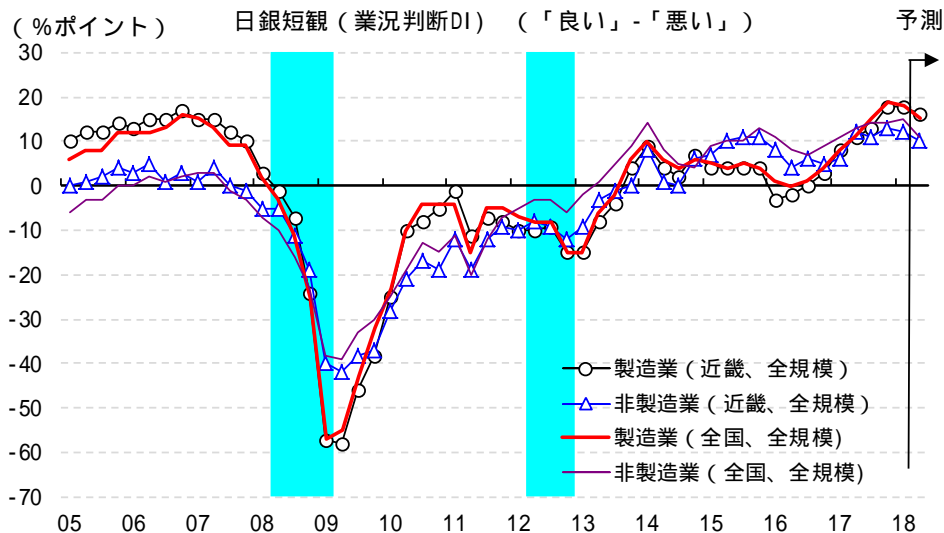
11月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差+2.5ポイントの127.6と2ヶ月連続で上昇した(現在、更新停止中)。採用7系列のうち、鉱工業生産指数、生産財出荷指数、百貨店売場面積当たり販売額など6系列がプラスに寄与した。また、C I先行指数は同+3.9ポイントの111.5と2ヶ月連続で上昇した。採用9系列のうち、鉱工業在庫指数、新規求人数、企業倒産件数、消費者態度指数など7系列がプラスに寄与した。



景気ウォッチャー調査によると、3月の近畿地区の現状判断D I(季節調整値)は前月差-0.6ポイントの50.1と3ヶ月連続で低下したが、全国(48.9)より高い水準を維持した。先行き判断D I(季節調整値)については、同+1.3ポイントの52.3と2ヶ月ぶりに上昇し、全国(49.6)より高い水準となった。

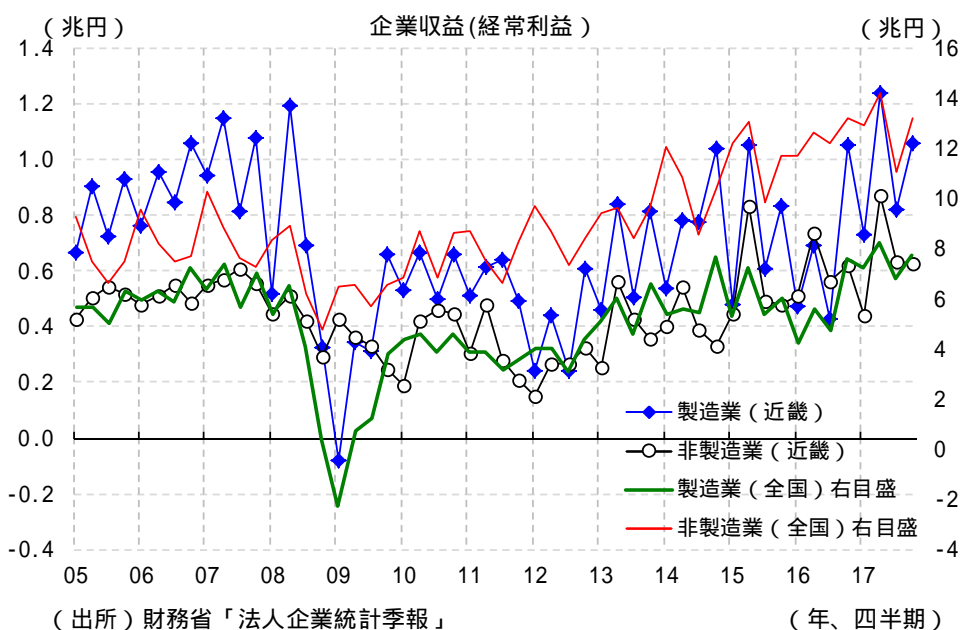


日銀短観3月調査によると、近畿地区の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は全産業(全規模)で+15と前回12月調査と同水準となった。製造業(全規模)は+18と12月調査と同水準となり、非製造業(全規模)は+12と1ポイント悪化した。規模別では、大企業は12月調査から悪化し、中堅企業、中小企業は前回と同水準となった。先行きについては、製造業(全規模)、非製造業(同)共に悪化が見込まれている。



(注1) シャド-部分は内閣府による景気後退期 (年、四半期)
 (注2) 2004年3月調査、2007年3月調査、2010年3月調査、2015年3月調査時点で、調査対象企業の見直しが行われたため、前後の系列にギャップがある
 (出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」

2017年10~12月期の近畿地区の大企業の経常利益(全産業)は、前年比+0.5%と5四半期連続で増加した。製造業は同+0.7%と5四半期連続で増加し、非製造業は同+0.4%と3四半期連続で増加した。日銀短観3月調査では、17年度の経常利益は全産業で同+20.1%、製造業で同+27.5%、非製造業で同+9.5%と見込まれている。18年度は全産業で同-0.4%、製造業で同-0.6%、非製造業で同0.0%と計画されている。



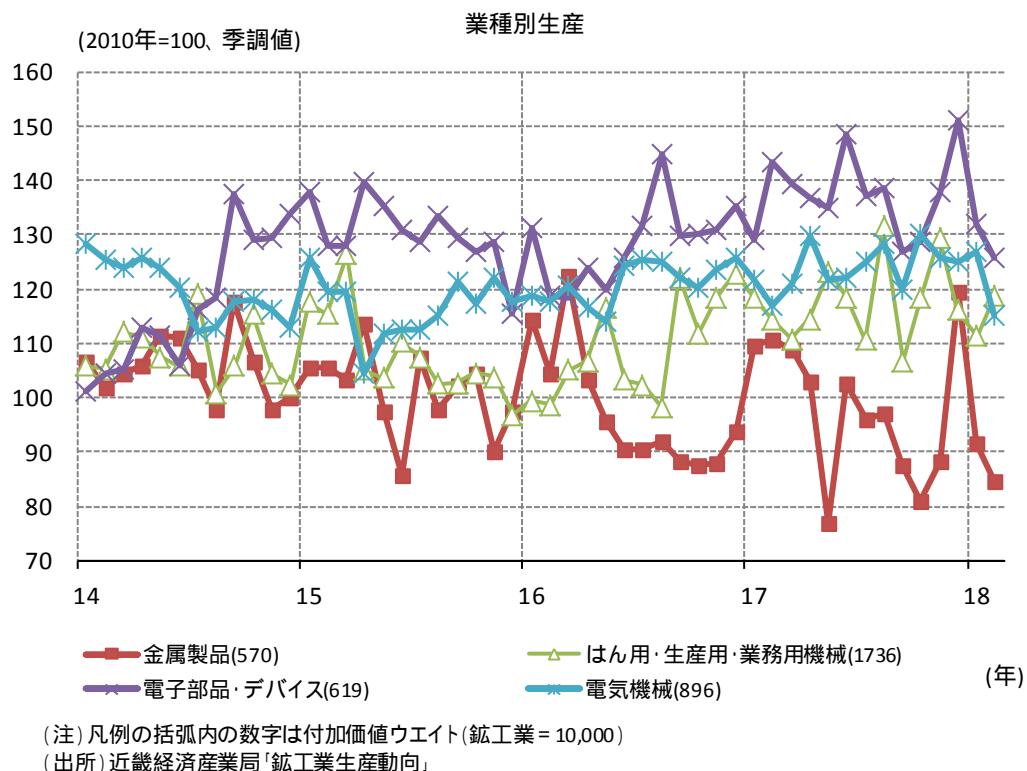
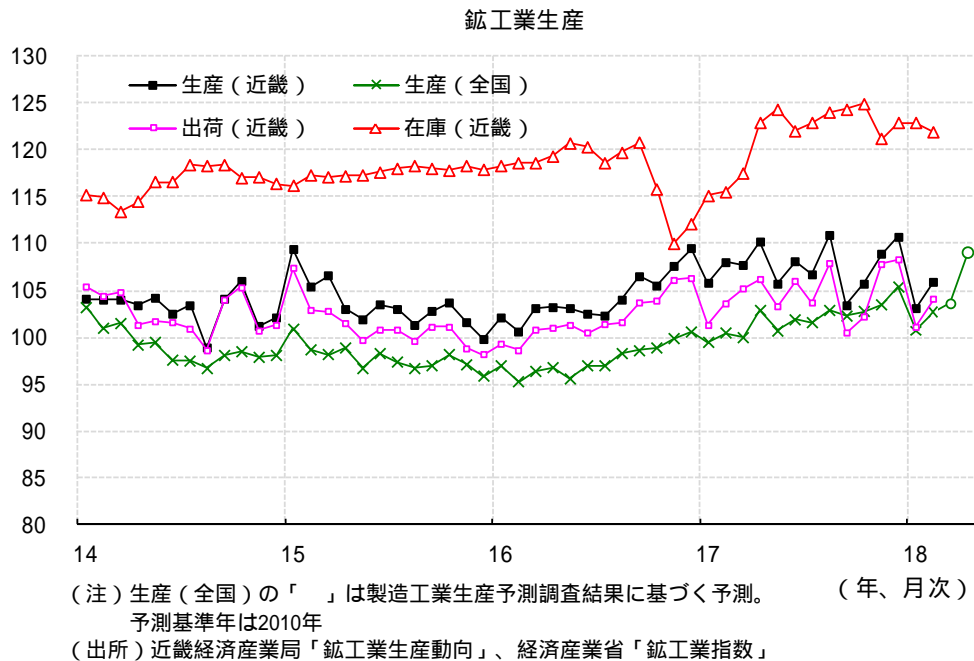
(出所) 財務省「法人企業統計季報」

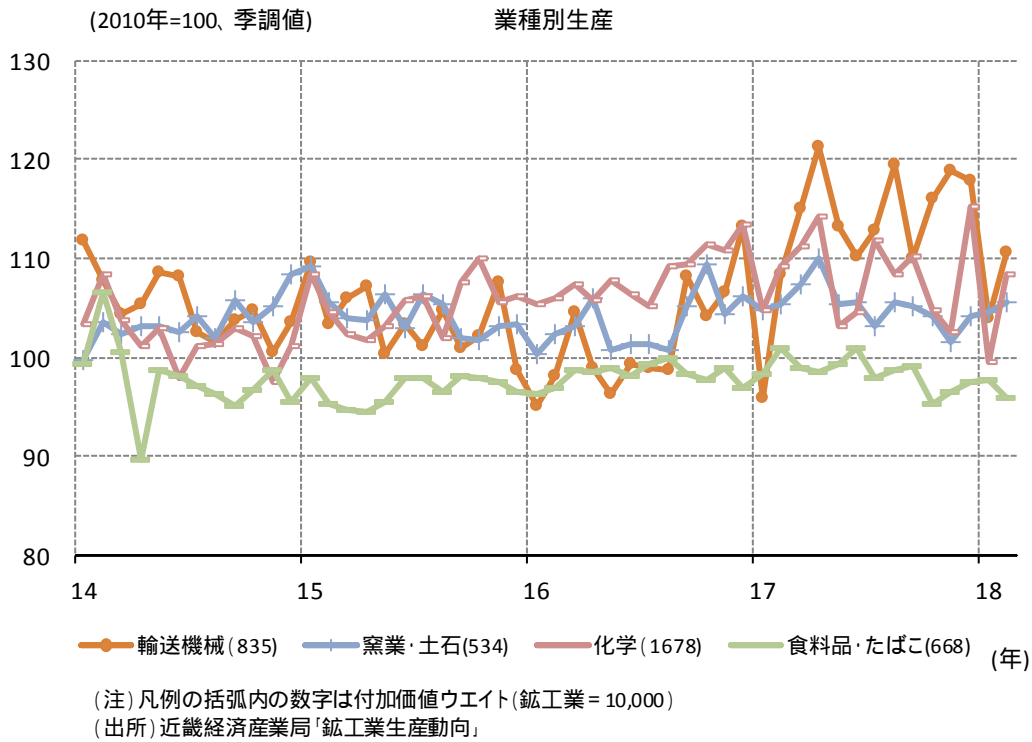
(年、四半期)

(グラフは前月号から変更なし)

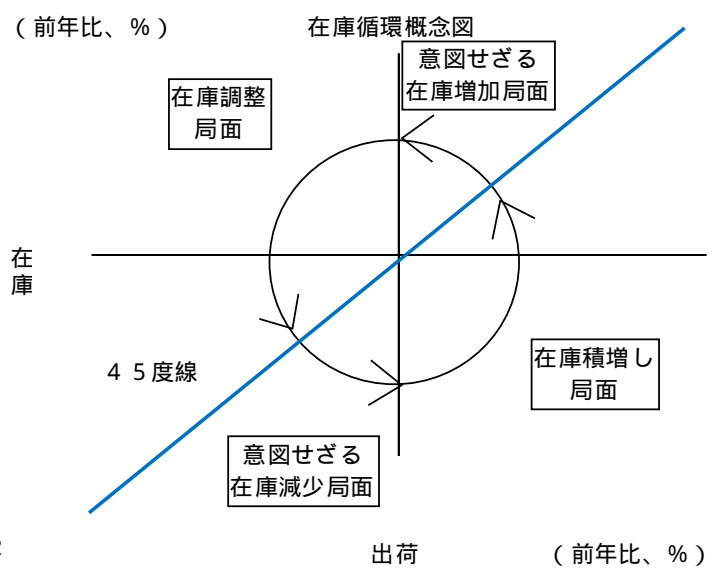
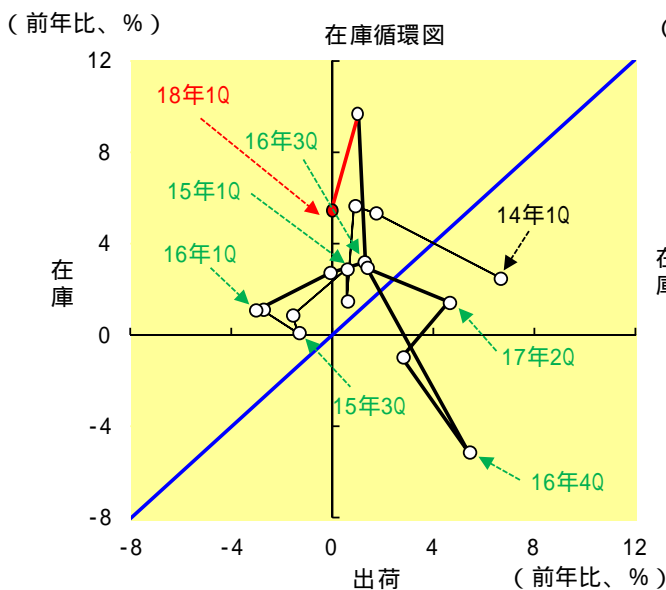
2. 生産 ~ 横ばい圏で推移している

2月の近畿地区の鉱工業生産は、前月比+2.7%と2ヶ月ぶりに増加した。電気機械、電子部品・デバイス、金属製品などが減少したが、はん用・生産用・業務用機械、化学(除く医薬品)、輸送機械(除く航空機・鋼船・鉄道車両)などが増加した。近畿地区の生産は、均して見ると横ばい圏で推移している。今後の生産については、世界経済の緩やかな回復が見込まれる中、緩やかな持ち直しが見込まれる。





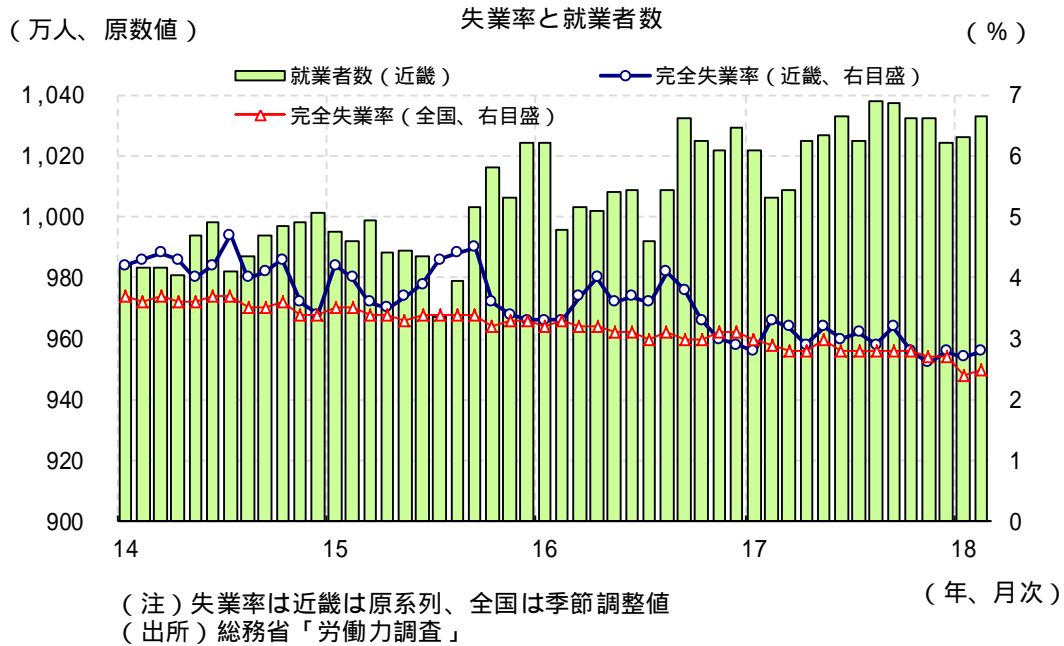
2月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比+3.0%と2ヶ月ぶりに増加した。電気機械、電子部品・デバイスなどが減少したが、はん用・生産用・業務用機械、石油・石炭製品などが増加した。鉱工業在庫は同-0.8%と3ヶ月ぶりに減少した。電気機械、鉄鋼、プラスチック製品などが増加したが、化学(除く医薬品)、電子部品・デバイス、石油・石炭製品などが減少した。



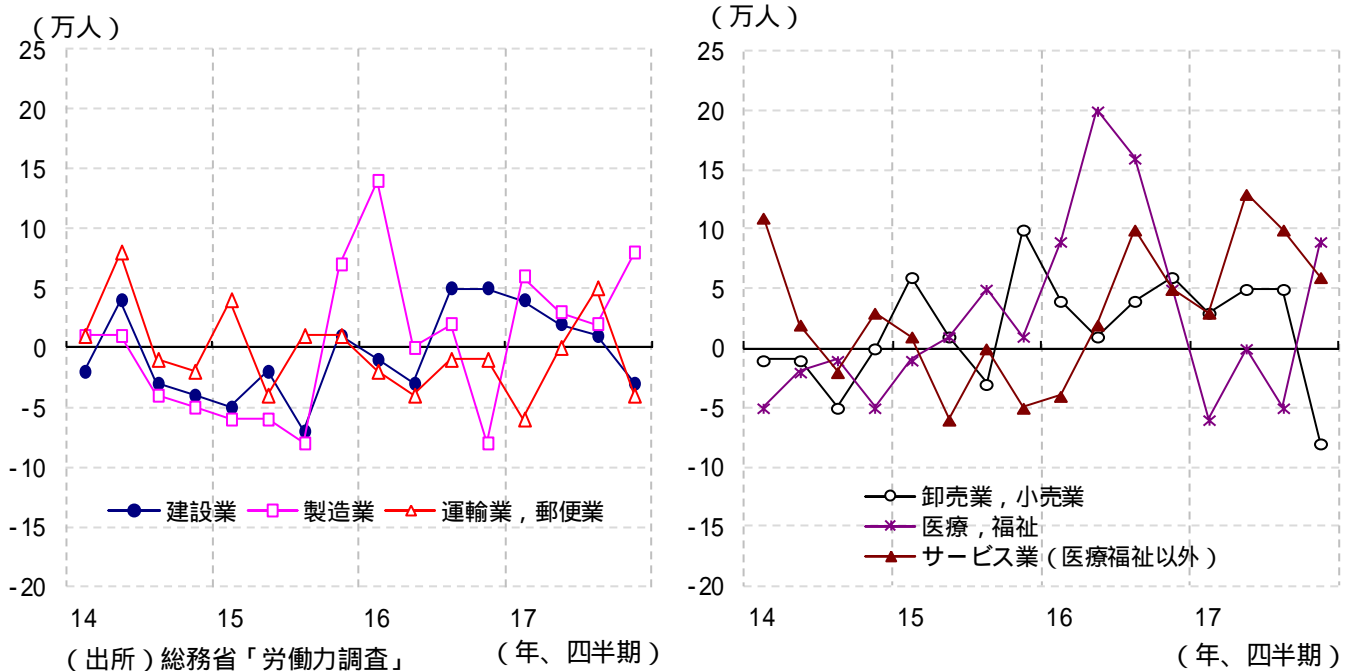
(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 直近18年1Qの出荷は1、2月平均、在庫は2月の前年比
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

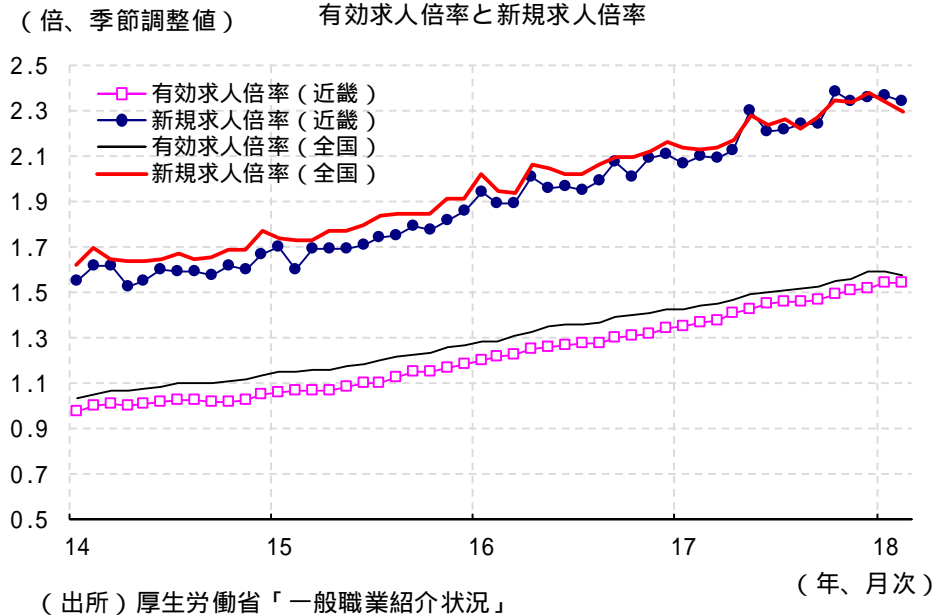
2月の近畿の完全失業率は前年差 - 0.5ポイントの2.8%となった。雇用者数は前年差20万人の増加、就業者数は同27万人の増加、完全失業者数は前年差同5万人の減少となった。業種別(10~12月期)に雇用者数をみると、建設業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業が減少する一方、製造業、医療、福祉が増加した。景気が緩やかに持ち直す中、今後の雇用も緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。



近畿地方の業種別雇用者数(前年差)

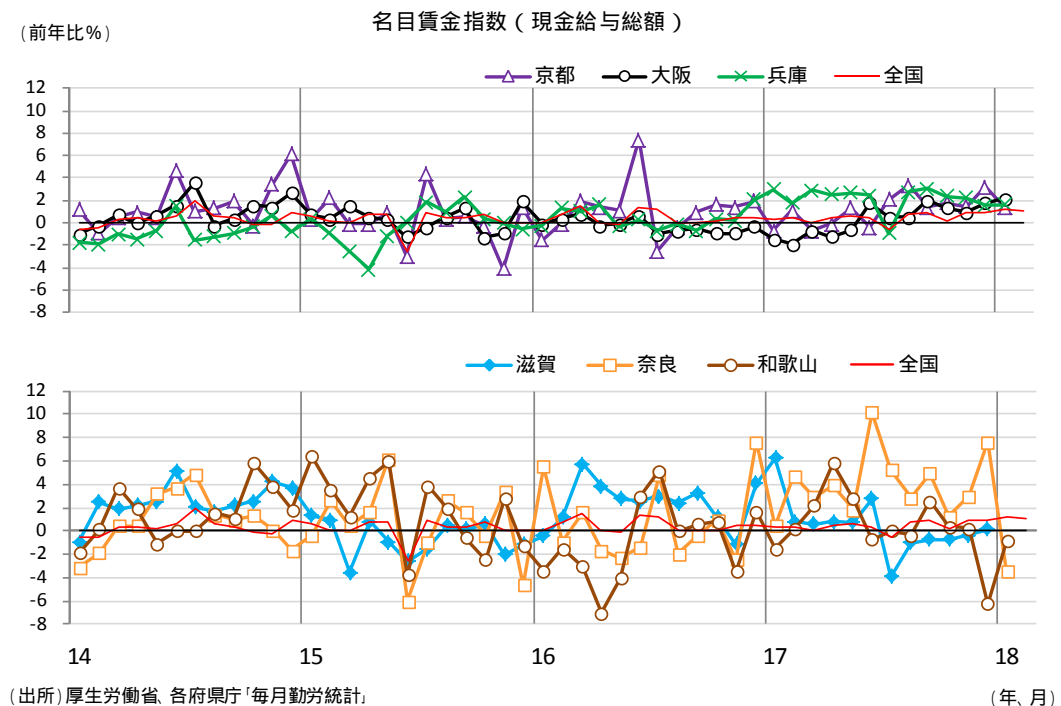


2月の近畿圏の有効求人倍率は1.54倍と前月と同水準となった。有効求人数は前月比 - 1.0%と21ヶ月ぶりに減少したが、有効求職者数が同 - 0.8%と13ヶ月連続で減少した。一方、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は前月差 - 0.03ポイントの2.34倍と3ヶ月ぶりに低下した。新規求人数は前月比 + 1.6%と2ヶ月ぶりに増加したが、新規求職申込件数も同 + 2.6%と2ヶ月ぶりに増加した。

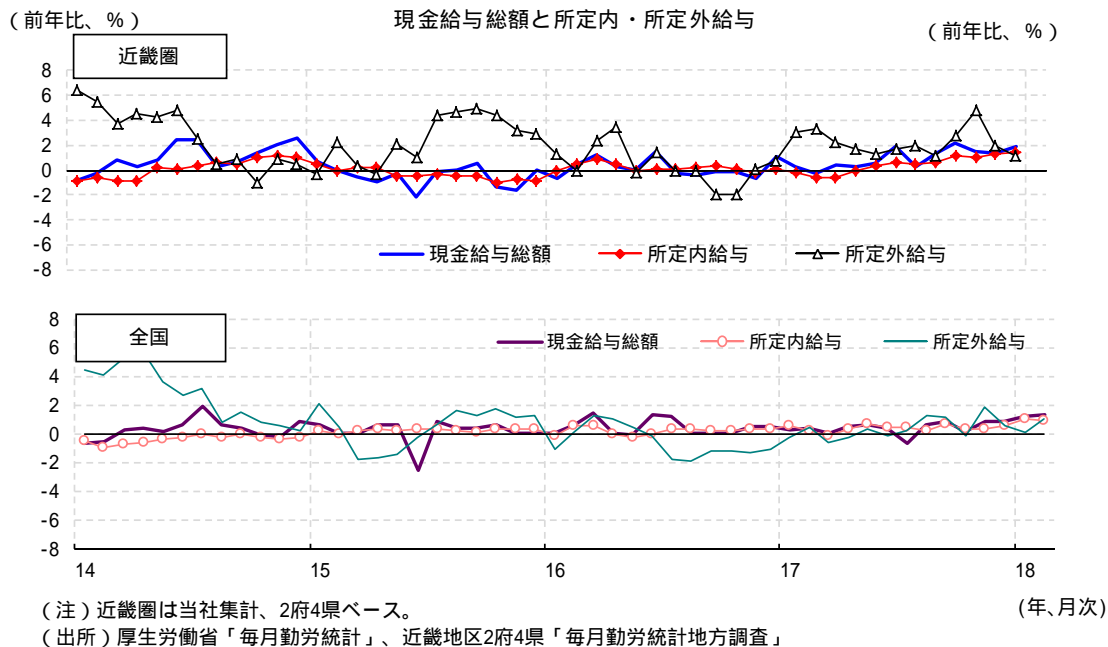


4. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している

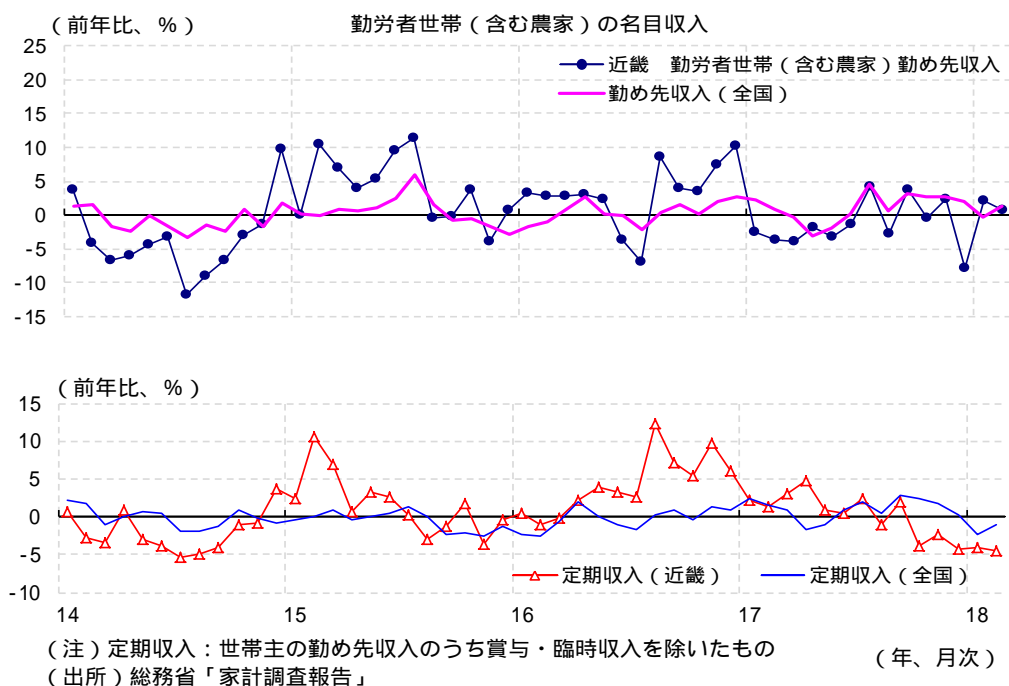
1月の名目賃金指数(現金給与総額)は、京都(前年比 + 1.4%)は7ヶ月連続、大阪(同 + 2.1%)は8ヶ月連続、兵庫(同 + 1.6%)は6ヶ月連続で上昇した。一方、奈良(同 - 3.5%)、和歌山(同 - 0.8%)は2ヶ月連続で低下した(滋賀の直近値は12月分)。関西の賃金は、昨年12月時点までで所定内給与が8ヶ月連続で増加するなど緩やかに持ち直している。今後も持ち直しが続くと思込まれる。



12月の近畿圏の現金給与総額(加重平均)は前年比+1.9%の57.7万円と10ヶ月連続で増加し、定期給与は同+1.4%と9ヶ月連続で増加した。内訳をみると、所定内給与は同+1.4%と8ヶ月連続で増加、所定外給与は同+1.1%と14ヶ月連続で増加した。

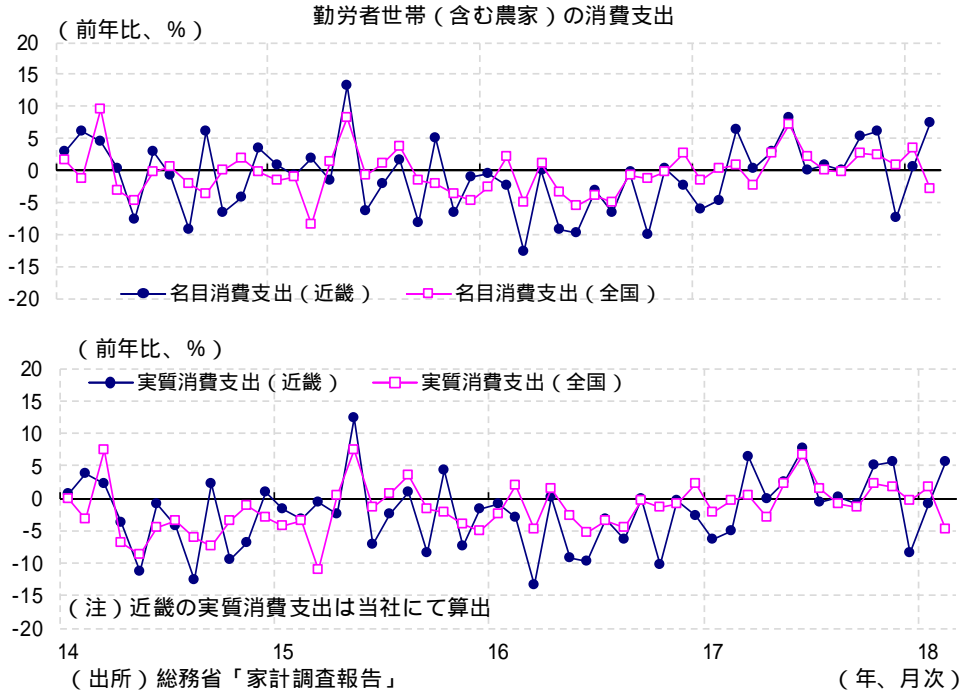


家計調査によると、2月の近畿圏の勤労者世帯(含む農家)の勤め先収入は前年比+0.6%の41.7万円と2ヶ月連続で増加した。一方、世帯主の勤め先収入は同-4.5%の35.8万円と5ヶ月連続で減少した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入は同-4.5%の35.4万円と5ヶ月連続で減少した。

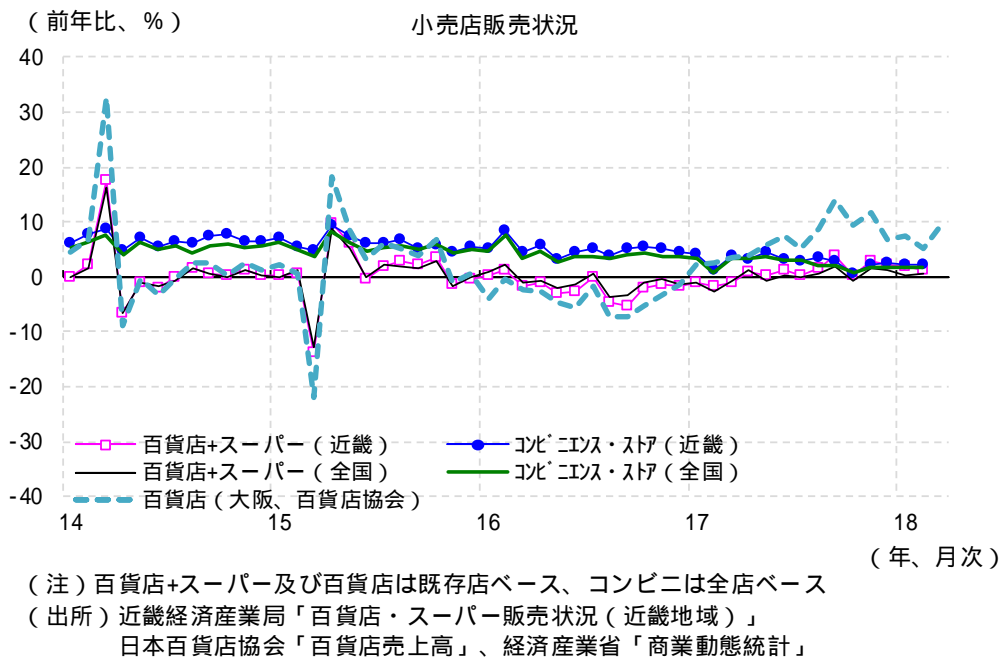


5. 個人消費 ~持ち直しの動きが見られる

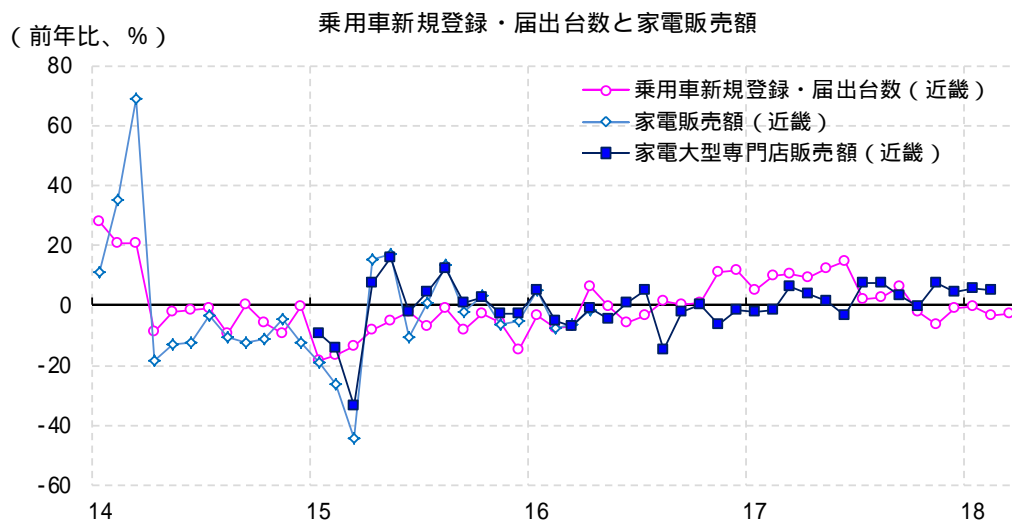
家計調査によると、2月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比+7.3%と2ヶ月連続で増加、物価の上昇分を除いた実質でも同+5.6%と3ヶ月ぶりに増加した。関西の個人消費は供給サイドの統計も含めて均して見ると、持ち直しの動きが見られる。今後は、所得環境の持ち直しを背景に、個人消費も持ち直すと見込まれる。



2月の近畿地区の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は、既存店で前年比+1.1%と11ヶ月連続で増加、全店では同-0.1%と4ヶ月ぶりに減少した。コンビニエンス・ストアの販売額（全店）は同+2.2%と60ヶ月連続で増加した。3月の大阪の百貨店売上高（百貨店協会）は、インバウンド関連の売上が引き続き好調に推移する中、同+9.1%（店舗調整後）と15ヶ月連続で増加した。

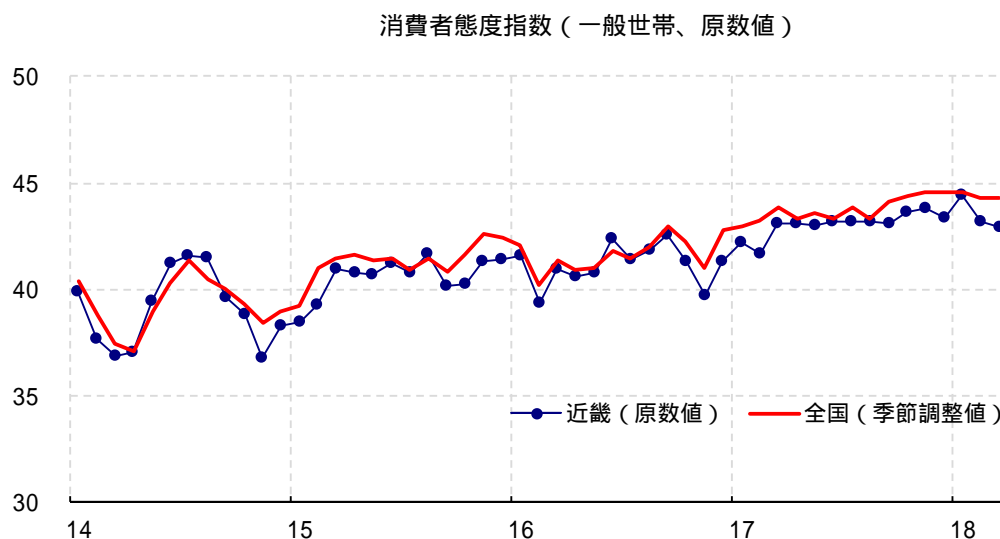


3月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比 - 2.8%と6ヶ月連続で減少した。普通車は同 + 5.8%と3ヶ月ぶりに増加したが、軽自動車は同 - 1.8%と3ヶ月ぶりに減少、小型車も同 - 14.1%と6ヶ月連続で減少した。府県別でみると、福井を除く2府4県で減少となった。一方、2月の近畿地区の家電大型専門店販売額は、前年比 + 5.0%と4ヶ月連続で増加した。



(注) 近畿の乗用車新規登録・届出台数は2府5県(福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)、家電販売額は福井県を除く2府4県。
 (出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、近畿経済産業局「近畿経済の動向」、経済産業省「商業動態統計」

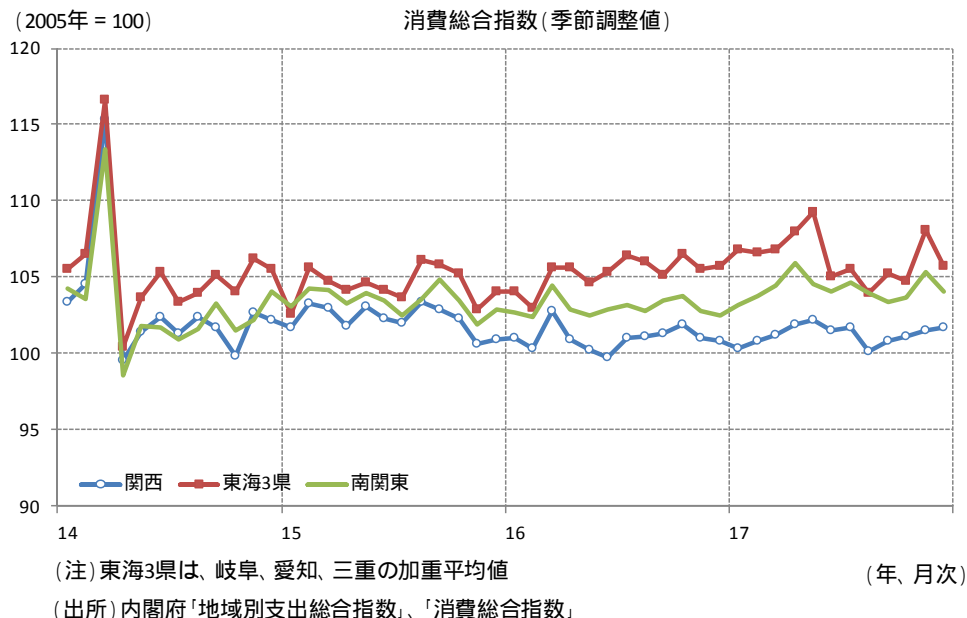
消費者マインドを表す消費者態度指数(近畿、一般世帯、原数値)は、3月は前月差 - 0.3ポイントの42.9と2ヶ月連続で低下した。近畿の消費者マインドは、均して見ると横ばい圏で推移している。今後については、所得環境が緩やかに持ち直す中、消費者マインドも緩やかに持ち直してくると見込まれる。



(出所) 内閣府「消費動向調査」

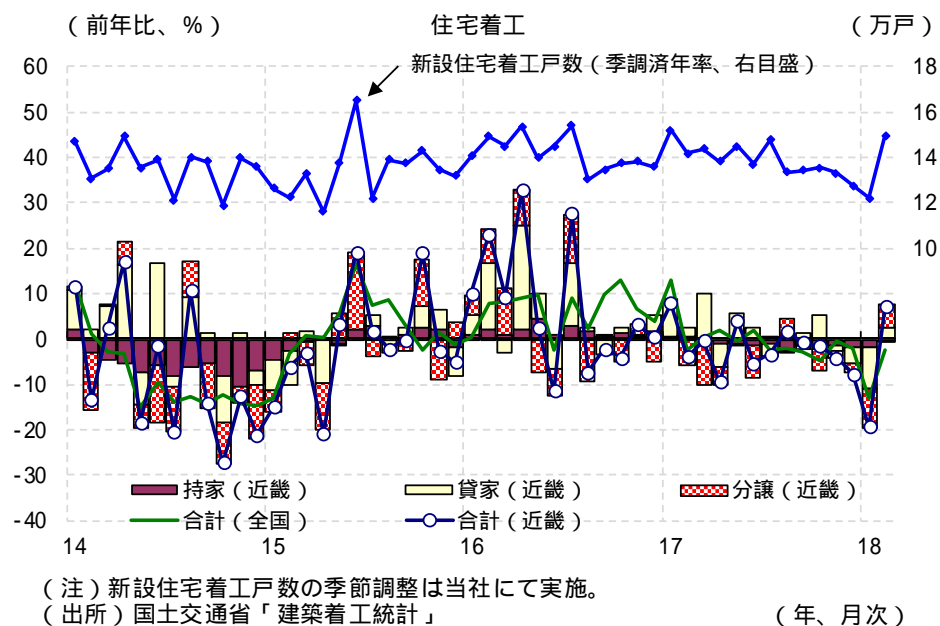
内閣府が2月に公表した地域別消費総合指数(直近は17年12月)によると、関西のサービス消費を含む個人消費の動向は、2014年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移している。足下の動向を見ると、2017年9月以降、緩やかながら持ち直しの動きがみられる。

(コメント、グラフとも前月号から変更なし)



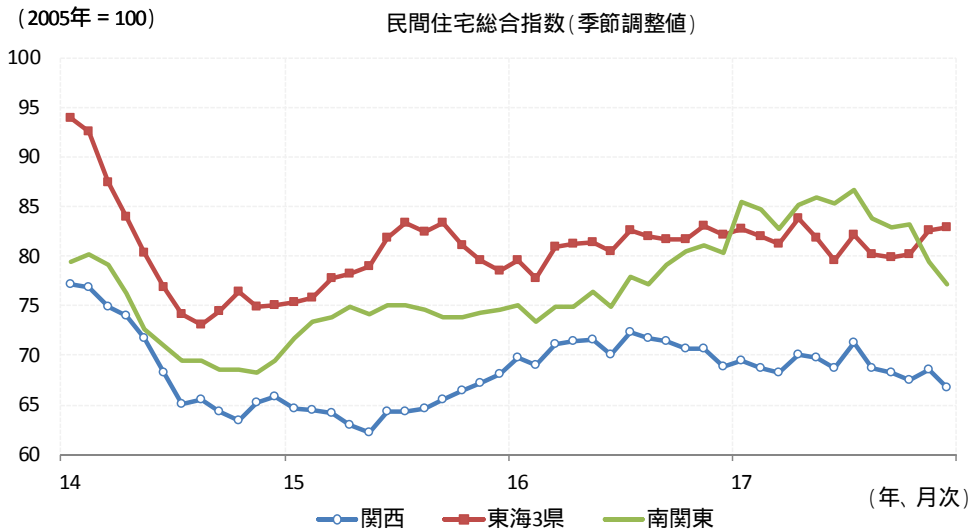
6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

2月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比+7.0%の11,387戸と6ヶ月ぶりに増加した。持家は12ヶ月連続で減少したが、分譲は6ヶ月ぶりに、貸家は4ヶ月ぶりに増加した。また、季調済戸数は年率14.9万戸と4ヶ月ぶりに増加した。近畿の住宅着工は、昨年秋以降緩やかに減少してきたが、2月に増加し、均して見ると横ばい圏で推移している。先行きについては、弱含みの推移が見込まれる。



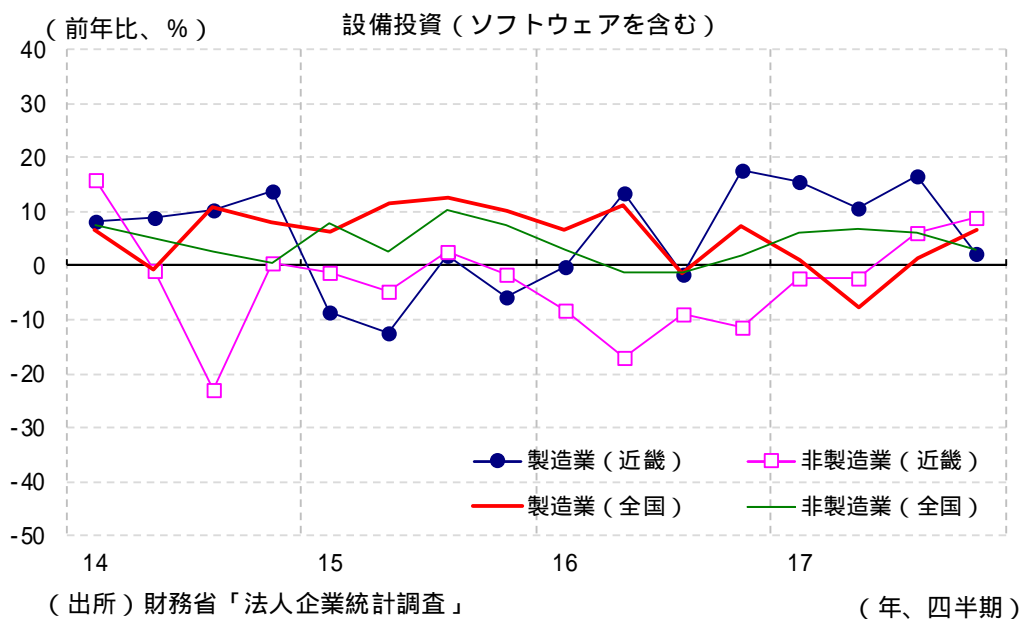
内閣府が2月に公表した地域別民間住宅総合指数(直近は17年12月)によると、関西の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、2014年1月をピークに急速に低下したが、14年7月以降は低下ペースが緩やかとなった。その後、15年半ば以降は上昇基調に転じたが、16年後半から弱含んでいる。

(コメント、グラフとも前月号から変更なし)

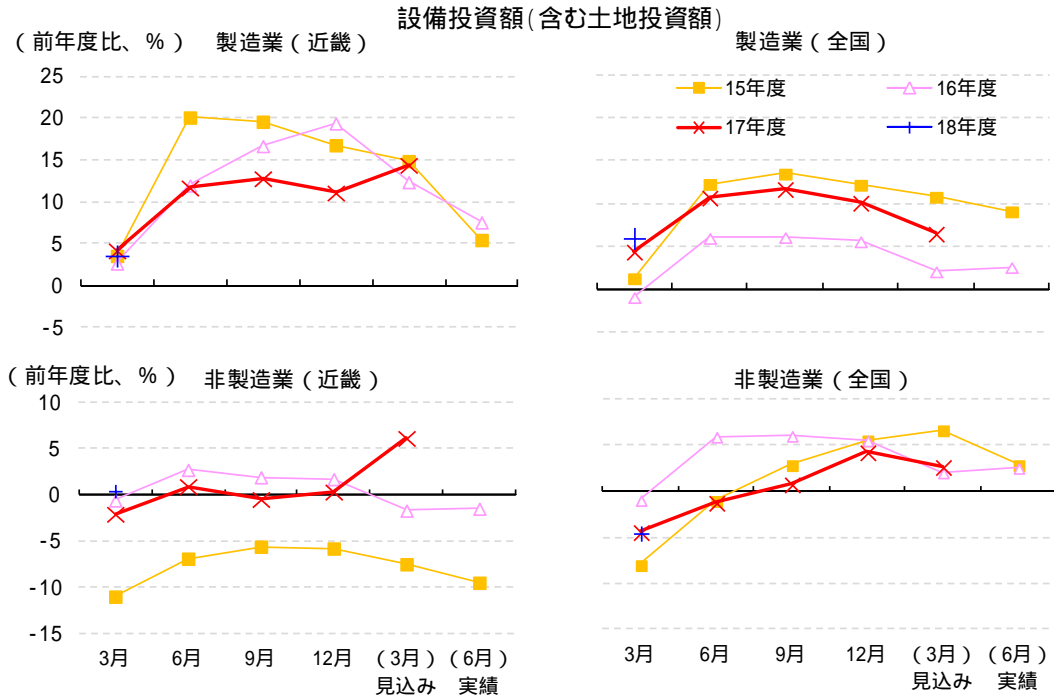


7. 設備投資 ~ 持ち直している

2017年10~12月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比+5.3%と5四半期連続で増加した。内訳をみると、製造業は同+2.1%と5四半期連続で増加、非製造業は同+8.8%と2四半期連続で増加した。関西の設備投資は持ち直している。

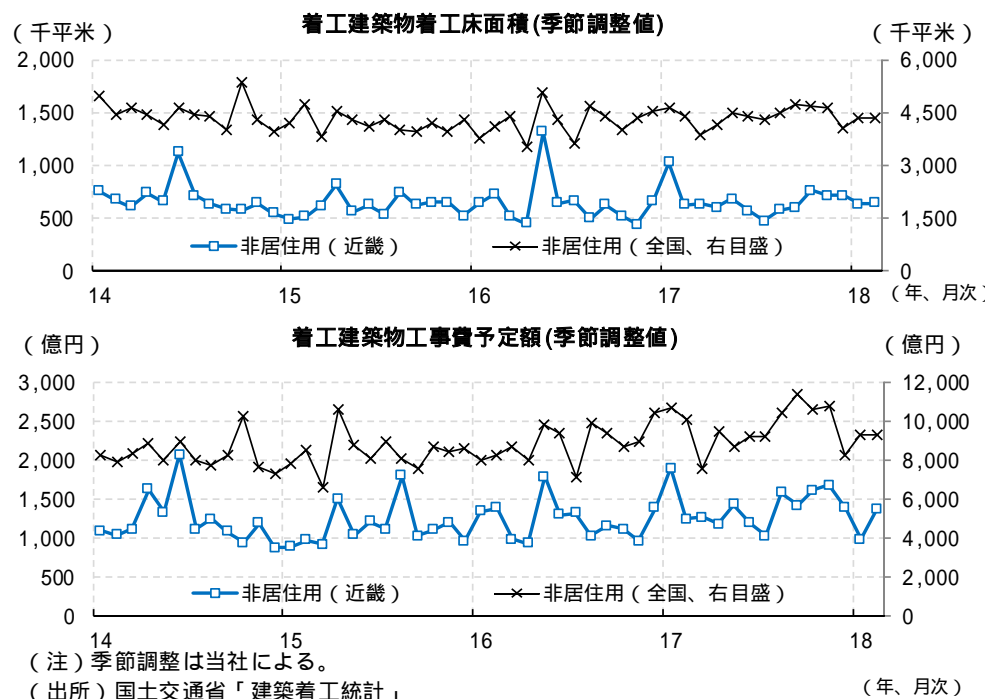


日銀短観3月調査によると、関西の17年度の設備投資は、全産業で前年比+9.6%（12月調査同+4.8%）と見込まれている。内訳を見ると、製造業は同+14.4%（同+11.1%）、非製造は同+6.1%（同+0.3%）といずれも増加を見込んでいる。18年度については、全産業で同+1.8%、製造業で同+3.6%、非製造業で同+0.4%と計画されている。

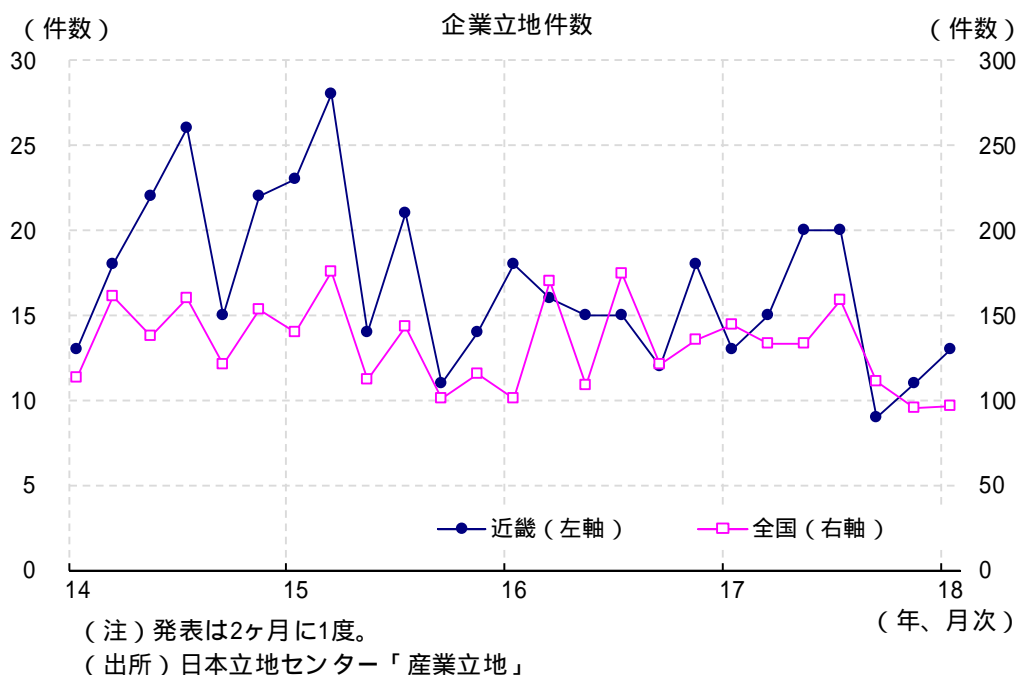


(出所)日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」

18年2月の近畿の非居住用の着工建築物の着工床面積(季節調済)は、前月比+1.4%と4ヶ月ぶりに増加した。また、工事費予定額(季節調済)も、同+38.6%と3ヶ月ぶりに増加した。近畿の非居住用建築着工は、概ね横ばい推移している。

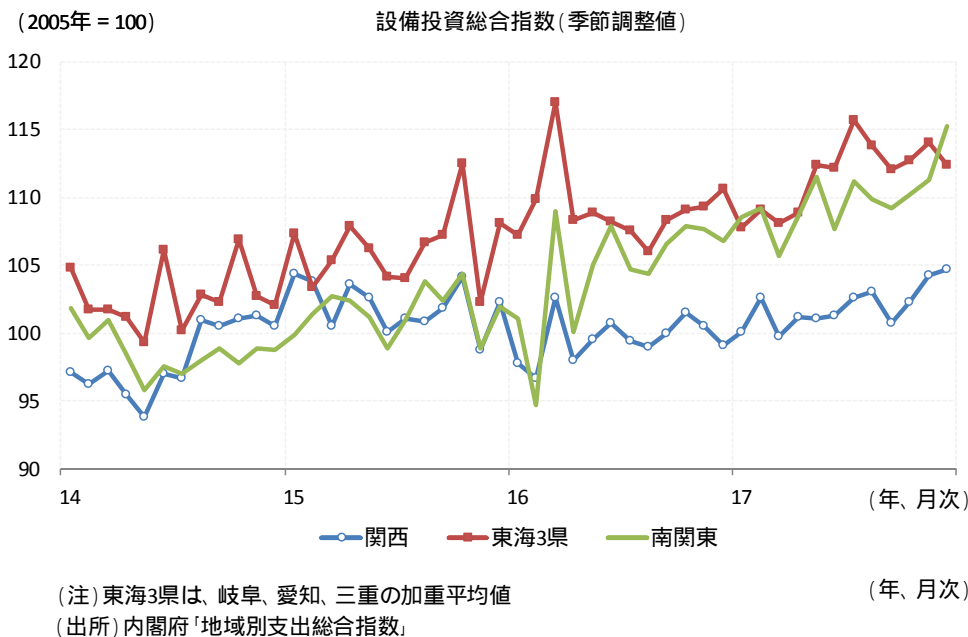


近畿地区の17年12月・18年1月の企業立地件数は13件と、前期(17年10・11月;11件)を上回り、前年同期(13件)と同水準となった。近畿地区の企業立地は、横ばい圏で推移している。



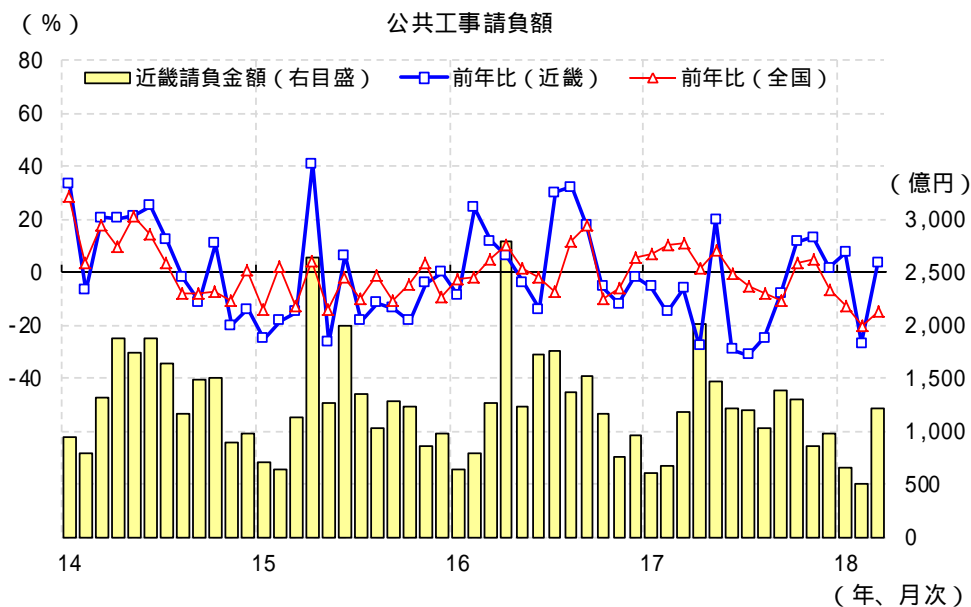
内閣府が2月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数(直近は17年12月)によると、関西の民間企業設備投資は、2017年以降緩やかに持ち直している。

(コメント、グラフとも前月号から変更なし)



8. 公共投資 ~ 減少基調

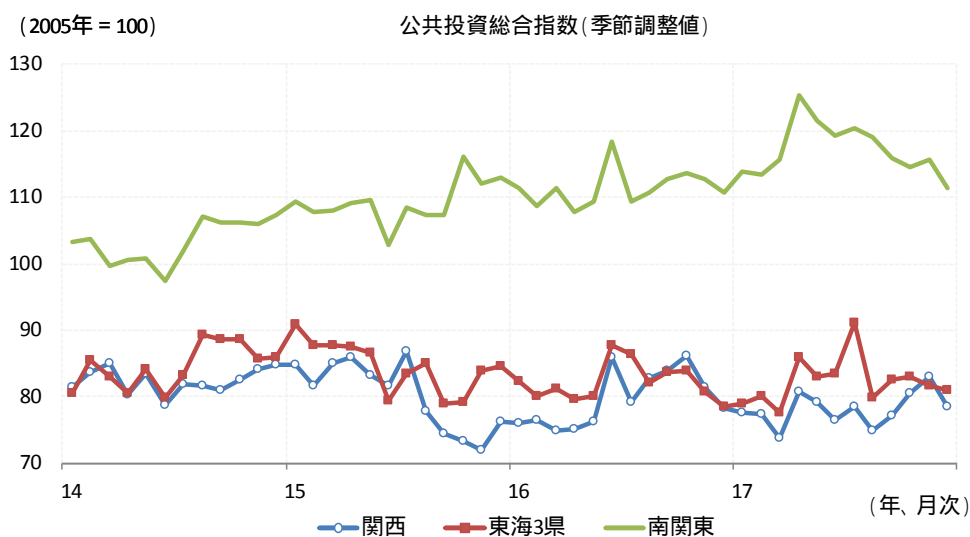
3月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比+3.4%の1,222億円と2ヶ月ぶりに増加した。府県別では京都、大阪、奈良で減少したが、滋賀、兵庫、和歌山で増加した。発注者別では独立行政法人、都道府県、地方公社は減少したが、国、市区町村、その他が増加した。一方、年度累計では同-12.0%となった。18年度も、年度ベースでは減少基調での推移が見込まれる。



(出所) 北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)

内閣府が2月に公表した地域別公共投資総合指数(直近は17年12月)によると、関西の工事進捗ベースでの公共投資は、17年度に入って以降、低水準で概ね横ばい圏で推移している。

(コメント、グラフとも前月号から変更なし)



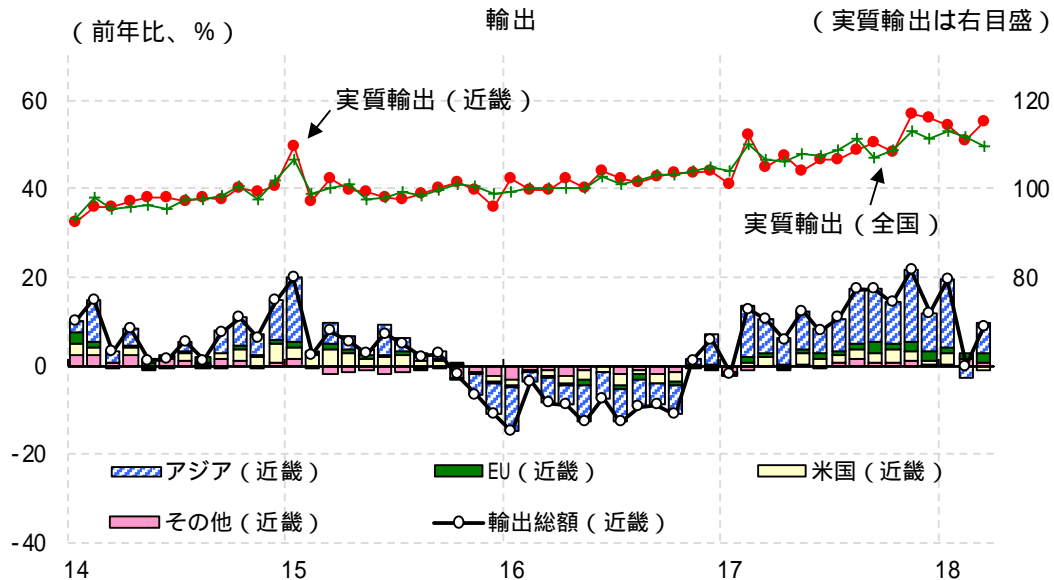
(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値

(出所) 内閣府「地域別支出総合指数」

(年、月次)

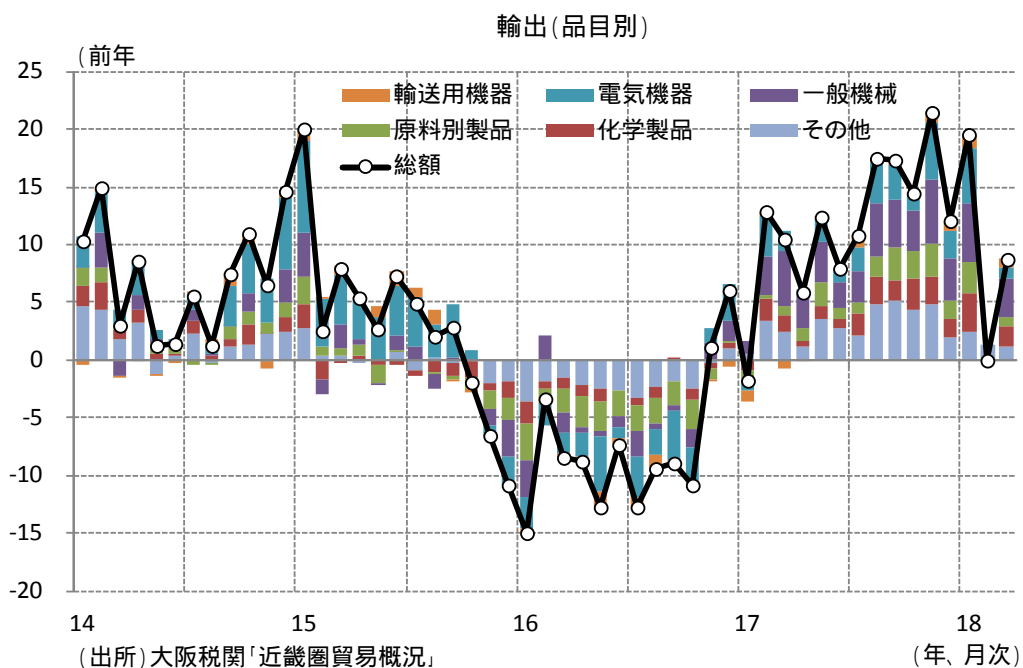
9. 輸出入 ~ 輸出は増加基調、輸入は横ばい

3月の近畿地区の実質輸出は前月比+3.7%と4ヶ月ぶりに増加し、均して見ると増加基調で推移している。3月の名目輸出額は前年比+8.8%と2ヶ月ぶりに増加した。地域別では、EUは11ヶ月連続で、アジアは2ヶ月ぶりに増加したが、米国は11ヶ月ぶりに減少した。今後については、海外経済の緩やかな回復が続く中、緩やかな増加が見込まれる。



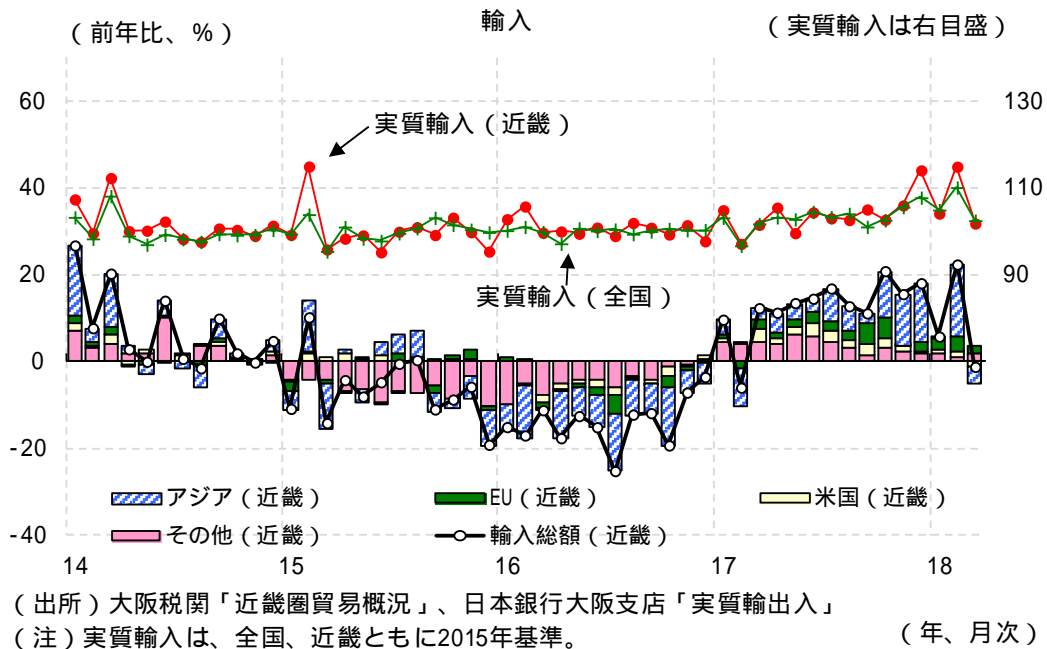
(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」 (年、月次)
 (注) 実質輸出は、全国、近畿ともに2015年基準。

3月の名目輸出額を品目別にみると、鉱物性燃料(前年比-16.5%)、加熱用・冷却用機器(同-20.3%)などが減少したが、原動機(同+42.0%)、半導体等電子部品(同+13.4%)などが増加した。



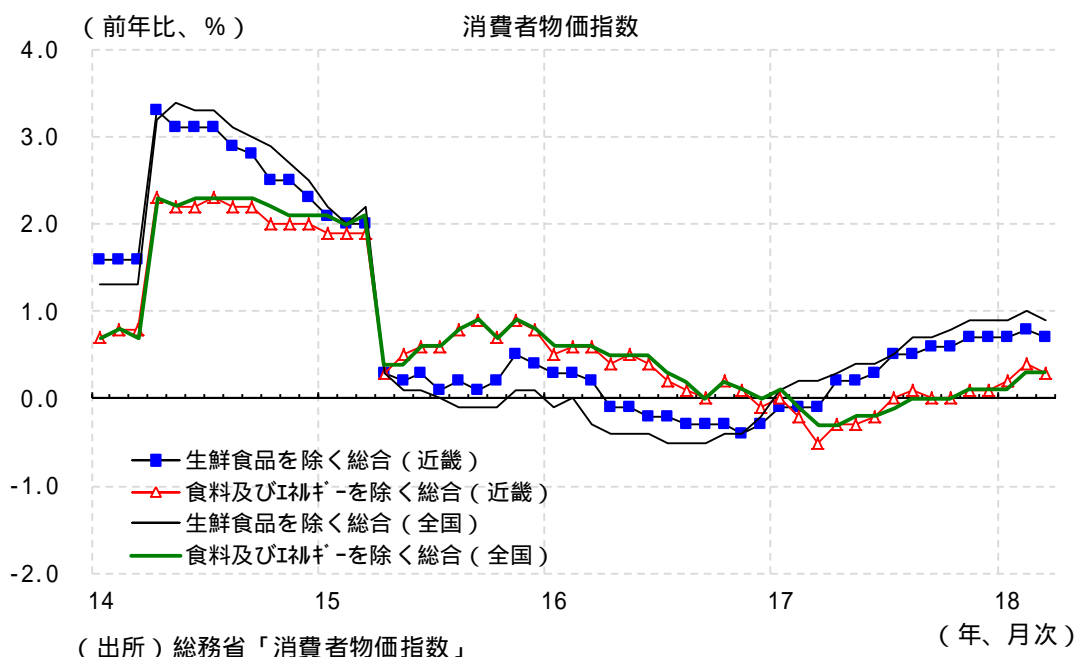
(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」

3月の近畿地区の実質輸入は前月比 - 11.4%と2ヶ月ぶりに減少し、均して見ると横ばいとなっている。3月の名目輸入額は前年比 - 1.3%と13ヶ月ぶりに減少した。地域別では、EUは13ヶ月連続で増加したが、米国は16ヶ月ぶりに、アジアは13ヶ月ぶりに減少した。品目別では、天然ガス及び製造ガス、通信機などが増加したが、衣類及び同附属品、石炭などが減少した。今後については、持ち直しが見込まれる。



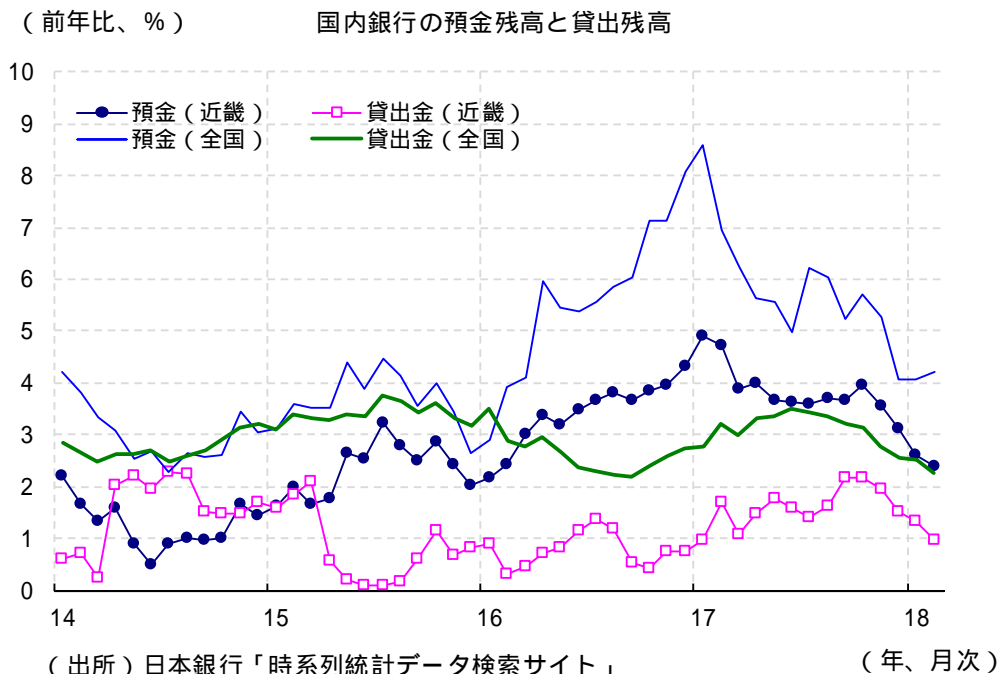
10. 物価 ~ 緩やかに上昇

3月の近畿圏の消費者物価は、生鮮食品を除く総合は前年比 + 0.7%と12ヵ月連続で上昇した。エネルギー価格は13ヶ月連続で上昇し、食料価格(除く生鮮食品)の上昇も続いている。また、食料・エネルギーを除く総合も同 + 0.3%と5ヶ月連続で上昇した。今後については、エネルギー価格の上昇一巡から、プラス幅は緩やかに縮小してくる見込みである。



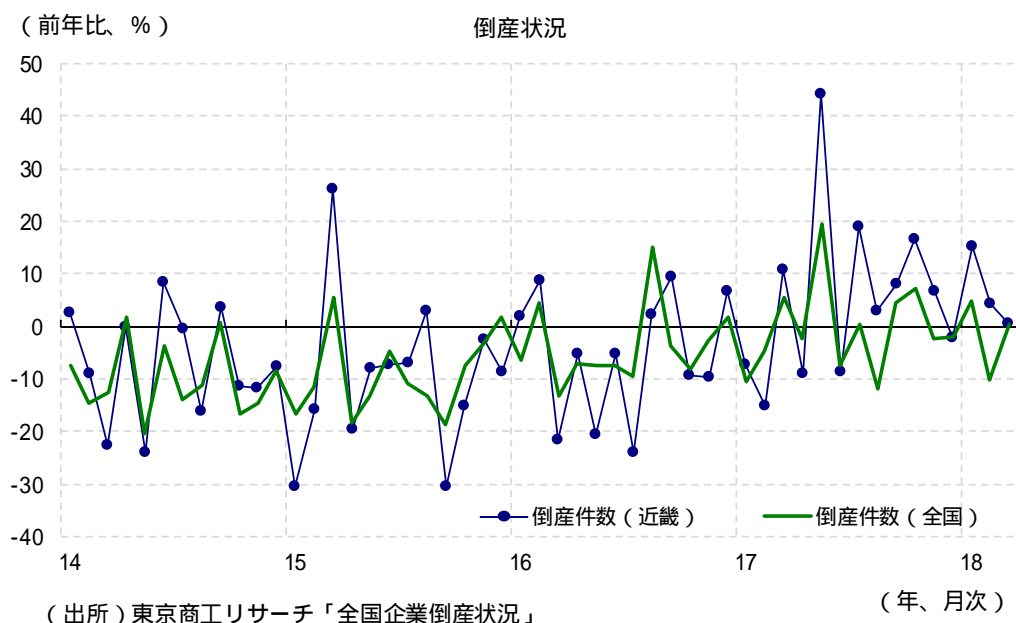
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

2月の近畿地区の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+2.4%の116兆円となった。定期性預金は減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の2月の貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.0%の61.6兆円となった。日銀大阪支店では「企業向けや住宅ローンの増加などを背景に」貸出が増加しているとみている。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに増加

3月の近畿地区の倒産件数は、前年比+0.5%の198件(前年同月197件)と3ヶ月連続で増加した。府県別では、滋賀は7件(同5件)、京都は29件(同26件)、兵庫は43件(同33件)、奈良は9件(同8件)、和歌山は12件(同6件)と増加したが、大阪は98件(同119件)と減少した。また、倒産企業の負債総額は、同+58.9%の261億円と2ヶ月ぶりに増加した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後			3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	輸出	全国	↗		↗
	東海	↗		↗		東海	↗		↗
	関西	↗		↗		関西	↗		↗
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	↗		↗
	東海	→		→		東海	↗		→
	関西	↗		↗		関西	→		→
住宅投資	全国	↘		↘	生産	全国	↗		↗
	東海	→		→		東海	↗		↗
	関西	→		↘		関西	→		↗
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	↗		↗		東海	↗		→
	関西	↗		↗		関西	↗		→
公共投資	全国	→		→	賃金	全国	↗		→
	東海	↘		→		東海	→		→
	関西	↘		↘		関西	↗		→

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

(注) 1. 3ヶ月前~、~3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す
 3. 全国は4月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		3月のコメント	4月のコメント
1. 景気全般	全国	回復している	回復している
	東海	回復基調	回復基調
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	増加している	増加のペースが緩やかになっている
	東海	増加基調	増加基調
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	改善している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	持ち直しが一服
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
5. 個人消費	全国	持ち直しが一服している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
6. 住宅投資	全国	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに減少している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	増加している	増加している
	東海	弱含み	増加している
	関西	持ち直している	持ち直している
8. 公共投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	減少している	減少している
	関西	減少基調	減少基調
9. 輸出入	全国	輸出は増加している、 輸入は持ち直している	輸出は増加している、 輸入は持ち直している
	東海	輸出、輸入ともに持ち直し	輸出、輸入ともに持ち直し
	関西	輸出は増加基調、輸入は持ち直しの動き	輸出は増加基調、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇
	東海	緩やかに上昇	緩やかに上昇
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加
	関西	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) 1. シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。